

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103902		
法人名	株式会社 河北食品		
事業所名(ユニット名)	千代の里グループホーム(1F)		
所在地	和歌山県和歌山市延時84-1		
自己評価作成日	平成25年10月28日	評価結果市町村受理日	平成26年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?act_i_on_kouhyou_det.ai_2012_022_ki_hon't.rue&ji_gvosyoQd=3070103902-00&Pr_ef_Qd=30&Versi_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

7月より運営理念を新たに”たくさんの「ありがとう」を感じていただけるホームを目指しています”とし、職員一同が気持ちを新たに”「ありがとう」=「感謝の気持ち」”を大切に、「ありがとう」を感じていただけるだけでなく職員一人ひとりが「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れずに日々、より良いケアの実践に努めています。また、食事面では管理栄養士が献立をたてバランスのとれた食事を提供し、誕生日等イベント時には利用者様のリクエストに副った食事を提供しています。医療面においても協力医師・訪問看護師との連絡を密にし、利用者様の高齢化・重度化に対応できる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営の体制が変わり、ホームの代表者・施設長・スタッフ共々、たくさんの「ありがとう」を感じていただけるホームづくりに向け、新しい介護姿勢を模索している。『心に念ずるだけでなく身について自然な「ありがとう」に到達出来るものを得たい』というスタッフの真剣な意見からは、このホームの新しい扉を開こうとする頼もしさを感じられた。又ターミナルケアについても、対応できるように努力調整中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングにて理念を唱和し、その都度理念に基づいての意見交換をし、個々の思いを共有しながらより良い支援を行えるように努めている。	事業所の体制が新しくなったのを機に、各ユニットで夫々が意見を出し合って検討し新しい理念を作り上げている。月1回ミーティングを持ち理念を唱和し、理念に基づいた支援が行えるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員さんと取り合ってはいるものの、地域活動には参加できていない。近隣の方が当ホームの庭の手入れをしてくださる等により交流を持てる機会を増やせるよう取り組んでいる。	施設隣に、市民1坪農園があり窓辺から声を掛ける等、交流している。また、民生委員と連携を取り、新たに体制を整え、交流を増やすよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんや河北食品を通じて事業所の様子や認知症についての情報を地域の方々に発信できるよう広報誌の作成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成員の方々には開催時の参加について同意は頂いているが、開催できていない。	担当職員が異動したこともあり、年内の開催に向け準備中である。	運営推進会議を定期的に行い、家族の意見や行事の報告、職員の考え等を積極的に伝えると共に経過報告することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かある際は直接窓口に行き担当者や相談等する事により信頼関係を深め、協力関係を築くよう取り組んでいる。	7月に組織変更があり、担当者が交替し引き継いだばかりのため、市に訪問しいろいろと教えてもらうことが多い。積極的に関わりを深めるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロアに「身体拘束廃止推進員」研修の修了者を配置し、ミーティングでその意義を話し合う等で職員間の意識の共有を図っている。また、玄関の施錠はしない等拘束の無いケアを実践している。	各フロアに拘束廃止に関する研修を受けたスタッフを配置している。玄関は施錠しておらず、出入りの制限もなく、利用者には出来るだけ自由にして貰えるよう配慮している。非常階段への扉は大きめの鈴をつけて危険を回避できるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」に関する研修に職員が参加出来る機会を設けている。また、管理者が職員に対し虐待に関する教育を徹底し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弁護士主催の研修に参加する等により知識を深めている。また、以前に制度を活用した事例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結、解約する際は家族と十分に話し合う時間を持ち、相互の理解に努めている。また、改定等がある場合には個別に電話連絡を取り内容説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付担当者を契約書に明記している。また、各フロア・玄関に掲示している運営規定に外部の相談窓口の連絡先を明記している。	面会時等に意見を聞いている。メニューについての意見があり、栄養面や味付けなどフロアで工夫する等対応している。また、経過を見て意見を家族から聞き運営に反映させる予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにおいて利用者の支援方法だけでなく業務体制についても職員の意見を聴くようにしている。また、定期的に個別面談を行い職員の意見を聴く機会を設けている。	ミーティングで、職員の意見を汲み上げるようにしている。又職員個別面談を定期的に行い意見を聴く機会を設ける等、運営に反映させる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等を観察・把握し、能力に応じた昇給を行い、また、シフトも変則的なものにならないようにすることで健康を損ねないようにし無理なく働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気付いた事はその場で指導・助言するようにしている。また、外部研修に積極的に参加させ学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	“和歌山県認知症支援協会”やその他の同業団体に加盟しネットワーク作りを行っている。また、それら主催の勉強会等にも参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけ個別に関わりを持ち訴えを傾聴し、信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で聴き取りを行い出来る限り家族の要望に沿ったケアを行うようにし、不安を解消しながら信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者(管理者)と職員が本人・家族の必要としている支援について検討し、支援方法を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を家族のように思い、また、尊重し敬意ある態度で接することでより良い関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡を取り、状況報告等を行うことで情報を共有し、共に利用者を支えて行く関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会を積極的に受け入れている。また、思い出の場所や馴染みの場所への外出支援を行っている。	これまでの利用者本人を支えてきた馴染みの関係が続けられるよう、家族の協力を得て、馴染みの店での買い物や、外食、美容院、墓参り等に出かけている。また、友人の面会を積極的に受け入れる等、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う利用者同士が寛げる場の提供をし、また、孤立しがちな利用者に対しては職員が間に入る事によって孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況・状態を家族に聴くようにしている。また、必要に応じて情報提供を行い退所後も相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを大切にし、日頃から利用者の表情の観察や声を傾聴することでニーズの把握に努めている。	利用者とのコミュニケーションをとり、話を聞くだけで終わらず横に座り共に過ごす中で感じ取るよう努めている。また、家族から情報を得る等して、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・担当ケアマネージャーからの情報をもとに利用者の経歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・個別記録を活用し現状を把握するようにし、また、観察することにより有する能力を見極め必要に応じたケアを行うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズを主体に家族・主治医の意見も聴きとった上で職員間でのプランを検討し作成している。また、経過を随時聴き取り経過観察を行っている。	家族・主治医の意見や、スタッフの意見を聞き取り各階の管理者がまとめ、利用者の現状に即した介護計画を作成すると共に、家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(ケース記録)を記入し利用者の状況把握に努めている。また、変化のあった利用者については、その都度記録を残し、申し送りを徹底し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療・福祉用具関係等の他業種と連携しニーズに合った対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	所轄の消防署と日頃から交流を持ち、安全な暮らし作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選定は本人・家族の希望を尊重している。特に希望がない場合は施設の協力医師に往診をお願いし、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望する医療機関を主治医としている。協力医については、週2回の往診の他、24時間連絡対応が可能となっている。また、訪問看護も受ける等適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師は配置していないが、必要に応じて協力医師の病院の看護師と連携をとることで利用者の健康管理を行っている。また、緊急時には訪問看護との連携も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には当施設から介護サマリーを作成し、退院時には医療機関から看護サマリーを作成してもらい、また、入退院の際には職員が同行するようにスムーズに情報交換が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方について家族と話し合っている。また、状態に応じて家族・協力医師・訪問看護と方針等の話し合いを行っている。	終末期までの対応を医師と話し合っている。事業所としてターミナルまでの経験はなく、家族からも希望はあがっていないが、看取りに向け検討を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所轄の消防署が主催する救命講習会へ職員が参加し訓練を受け、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防署と連携を取り、また、定期的に事業所にて消防訓練を行い消防署員による非常時の指導も受けている。	年2回訓練をしている。その内1回は消防署の協力を得て実施している。水害に対しては、近くに高い建て物がなく、3階建てのホームが避難場所となっている。また、地域住民からの支援協力が得られるよう検討している。	災害に関しては予想外の事故が起きていることから、地域との情報の共有や連携が必要である。より地域との協力体制を強化されるのが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務の中で常に上司が指導を行い、また、ミーティング等で話し合いの場を持ち、職員個々の意識を高め実践に努めている。	スタッフの声掛けは土地言葉を柔らかく使い、なじみやすい会話となっている。食事中の食べこぼしなどは、そっと何気なく処理する等、人格やプライバシーに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で言葉だけでなく表情や何気ない行動からも要望を探るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位のケアを心掛けるよう指導している。また、利用者個々のペース・状態・状況に応じた対応が出来るような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り自身で衣服を選択して頂き、一緒にテレビや雑誌を見ながら利用者の好みを探りその時々のおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れるよう工夫している。また、テーブル拭きや下膳等を共に行っている。	誕生会や利用者の希望により、食材をフロアでアレンジし献立にする等、工夫している。誕生日には皆で食事を囲み会話を楽しんだり、テーブル拭き等の準備や片付けを手伝ったりして楽しい雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成している。また、利用者の咀嚼・嚥下状態に応じた形状の食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがい・食後の口腔ケアの徹底を行っている。自分で歯磨きをされる方に対しても職員が口腔状態を確認するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、尿意の無い方に対しては声掛けにて定期的にトイレ誘導を行っている。また、可能な限りトイレでの排泄をして頂けるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを24時間シートに記録し把握している。利用者に併せポータブルを使用したり、リハビリパンツを使用している場合には誘導を多めする等自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、毎日のラジオ体操により便秘予防を行っている。また、排便状態を把握し、必要に応じて医師に相談し下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の気分・体調に合わせた支援を行っている。	利用者により、毎日入浴や、週2日入浴等様々で、希望により友達と一緒に入浴することもある。また、医師の制限がある場合は腰湯や足浴マッサージ等にする等、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぐ為、日中は活動して頂けるよう支援しているが、必要に応じて日中でも臥床して頂く事がある。その際は夜間の睡眠に支障が出ないように十分な注意をはらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋をチェックし服薬状態を把握するようにしている。また、薬剤師による管理指導も行われており、医師・薬剤師・職員が連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事で出来る事があれば共に行うようにしている。また、趣味等を活かせるような場を作ったりする等、自由に過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敷地内を散歩したり日光浴する機会を作っている。また、遠方であれば希望が叶えられるよう家族と協力し出かけられるよう支援している。	利用者は敷地内や、すぐ近くの市民農園の見学などに出かけ交流したりして楽しんでいる。体力的に外出を好む利用者が少なくなっているが、庭に出て外出気分を味わう等工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ家族の了承のうえで自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば職員が電話を取り次ぎ使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は空調を使用して快適に保っており、24時間の換気設備により清潔を保っている。また、季節感を取り入れた装飾をし室内でも四季を感じて頂けるよう工夫を行っている。	空調の調節されたフロアで食事中はテレビを切り、ラジオからメロディーが流れる落ち着いた雰囲気になっている。台所の調理風景は利用者の話題の種で利用者同士で嗜好の会話が流れる等居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が落ち着けるように状態に合わせソファの配置を変更する等の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具等を持ってきて頂けるよう家族にお願いしている。また、写真や小物などを飾る等により殺風景にならないよう工夫を行っている。	居室には家族、利用者本人の希望により使い慣れた家具や小物類が持ち込まれ、思い出の写真や花などが飾られる等、夫々工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し段差を解消し安全な環境作りをしている。また、自室やトイレの場所をわかりやすくする為、扉にプレートを設置する等の工夫も行っている。		